

子供の「やる気」が出る 「評価」のしかた

次期学習指導要領で大きく変わる

- ① 「個別評定の原則」を学ぼう
- ② 自己調整力を伸ばす評価をしよう
- ③ 効果的な評価のタイミングを考えよう
- ④ **提案** 「挽回」できる評価システムを作ろう
(教育課程企画特別部会)
- ⑤ 「やる気が出る考え方」を子供と語ろう



イラスト：柴崎 昌紀



1 文科省の論点資料を読もう

文科省の教育課程企画特別部会が出した資料が話題を呼びました。

論点資料⑨

豊かな学びに繋がる学習評価の在り方
〜過度な負担を生じさせない在り方との両立〜（二〇二五年七月四日）

例えば、次のような「課題」が指摘されています。

- ① 形成的評価と総括的評価が依然として区別されていない。
- ② 力が伸びているのに、学期の評定を学期末に変更できていない。
- ③ 評価材料を集めるのに追われて指導の改善に注力できない。
- ④ 評価することでかえって学ぶ意欲を下げている。

思い当たる節、ありますよね。

そこで、「主態（全体的に学習に取り

組む態度）」は評定しないと、「挽回」の機会を提供するとか、積極的な提案が様々になされています。

論点資料ですから確定したものではありません。しかし、こうした方向で議論されているという事は良いことです。ぜひ、目を通しておきたい資料です。

2 向山氏が提案してきた評価手法

今回出された「個人内評価」や「挽回できる評価」等は、向山洋一氏が新卒の当時から議論していたものです。

二学期に習ったことが、その時のテストではあまりできなかったかもしれない。でも、三学期に同じ問題を解いてみたらできた。だったら、その時の通信簿の評定は修正されてもいいのでは？ といった提案です。

向山氏はその後も評価について数々の提案をしてきました。

最も代表的なものはこれでしょう。

第九条 個別評定の原則

この原則は、

- ① その場で子供の状態を見取り
- ② その場で評定と評価言を伝え
- ③ その場で指導の改善に生かす

というものです。つまり、「形成的評価そのもの」です。

あるいは、「あかねこ計算スキル」では必ず「自分で採点」させます。「あかねこ漢字スキル」では必ず「友達と採点」させます。もちろん、その方が評価として効果があるからです。

テストをするたびに、通信簿をもらうために、子供たちの意欲が下がっているのだとしたら、そんな評価にどんな意味があるのでしょうか。

この特集では子供たちがやる気満々になる評価・評定の具体的な工夫をお示しただきたいと願いました。

（本誌編集長 谷和樹）

『新版授業の腕を上げる法則』（向山洋一氏 学芸みらい教育新書）に「授業の原則一〇カ条」がある。

第九条が個別評定の原則。「誰がよくて誰がわるいのか評定」するのが個別評定の原則である。

例えば、跳び箱・開脚跳び指導。
向山氏はこう書いている。

私の場合は、二台を同時に使い、次々に跳ばせる。そして、10点満点などで、次々に評定するのである。これをのんびりやると、授業のリズムが崩れてしまう。次々に跳ぶ子に対して、次々に評定する。（四八ページ）

ポイントは「次々に評定する」ことである。次々だから、どの子も何回でも挑戦できる。一回ではない。総括的評価ではなく、形成的評価なのだ。

私のクラスでのこと。六年生。
授業前、開脚跳びができないAさんが

いた。向山式跳び箱指導により、五分で跳べるようになった。全員、跳べた。次は、二台の跳び箱で、子供たちを次々と跳ばせた。

私は着地だけを個別評定する。

「一点。ふらふらしている」

「一点。ドンツと音がする」

自分は跳び箱が得意だと思っている子ほど、美しさがない着地をした。

低い点数を言われ、「え？」と驚いていた。そんなわけがないという表情だ。

Aさんの番がきた。

ふわっと、優しい着地をした。膝も柔らかく曲がり、そしてゆっくり伸びる。

「一〇点」「え〜〜〜!!」

跳んだ本人も、周りの子も、やんちゃな男子も驚いていた。

私は再度、伝えた。

「一〇点です。足の指のしなやかな動きが見えるようだ。自然な美しさです」

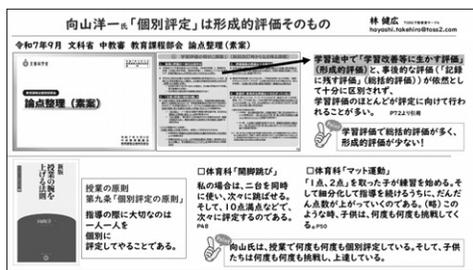
体育館に拍手が響く。

Aさんは、何度も何度も跳んだ。

先ほど一点と言われた男子たちも、どんどん挑戦した。一〇分後には、どの子も美しい着地ができるようになった。中教審教育課程部会「論点の整理（素案）」。

「学習途中で学習改善に生かす評価（形成的評価）」を課題としている。

個別評定は、まさに形成的評価である。



何度も何度も子供たちは挑戦する。教師に個別評定されると、子供たちは更に熱気を増し挑戦してくる。授業の熱中度が大きく変化する。



デジタル版 DIGITAL

カラー画像を見ることができます!

